



vol.3



ちえから
大津の暮らしのなかにある
「check it out (注目!・見逃さ
ないで)」なヒト・モノ・コトを
発信する情報誌

特集：つながりのなかで生きる。

インタビュー◆映画「逃げ遅れる人々」から学ぶこと
ミニレポート◆若者カフェvol.2「不登校の子を抱える親の悩みを共有する会」

11月23日はお天気にも恵まれ、
《おおつ市民活動フェスタ2016》は
0歳からシニアの方々まで6000人を
を超える多くの方にお越しいただき、
大盛況!ありがとうございました。



おおつ市民活動フェスタ2016レポート

10周年を迎えた市民活動フェスタ。大津市社会福祉協議会さまに共催いただき、「防災」をテーマに各団体とコラボ企画がいっぱい。市民活動団体だけでなく、企業や行政など様々な団体にご協力いただき、「防災」を楽しく、学び、体験できる一日となりました。



市民活動×行政

市民活動フェスタを終えて

大津市 危機・防災対策課より

防災

平素より、本市の防災行政の推進に格別のご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

去る11月23日に「防災」をテーマとして『市民活動フェスタ』が開催され、私たち危機・防災対策課は、これまでの地震災害の状況や本市の地震における被害想定から、地震対策の第1歩となる家具類の転倒・落下防止対策に関する講座を実施し、受講者の皆様には熱心にお聞きいただきました。災害への日頃からの備えや気づきなどを考える良い機会になればと願っております。

また、防災フォーラムにも参加させていただき、越市長の「自助・共助・公助の相互連携が重要」との挨拶の後、本課から「大津市の防災の取り組み」について説明させていただき、地震や風水害等による複合災害や男女共同参画の視点からの防災活動の課題などについて意見をいただきました。今後とも、市民の皆様とともに、本市の防災・減災への取り組み強化に努めていきます。(野村)



市民活動×企業

大和ハウス工業株式会社

市民活動フェスタにご協力いただいた大和ハウス工業株式会社さまにお話を伺いました。

【企業登録団体第1号として市民活動フェスタに参加】

大和ハウス工業株式会社では、地域に貢献することが企業の努めであるという企業指針のもと、昨年度、大津市・自治協働課様より大津市市民活動センター様をご紹介頂き、地域貢献活動に対して常にアンテナを張っていたとの思いから企業として初めて団体登録いたしました。

本年度の市民生活に広く関わる「防災」をテーマとしたフェスタは当社としても非常に興味深く、ブースを出展させて頂き、桜の植樹活動等、企業PRもできました。また昨年度のフェスタに参加させて頂いたご縁から、様々なイベントに携わる機会も頂きました。また当社には、茶道やフラワーアレンジメントなどそれぞれ特技を持っている社員もいます。特技を活かした企画が実現出来れば、参加する社員も楽しく、より積極的に活動できるのではないかと思います。



【世の中が必要とする事業<アスフカケツ>】

当社は人・街・暮らしのよりよい未来をつくるため、明日の社会に不可欠なこと<アスフカケツ> ア(安全・安心)・ス(スピード)・フ(福祉)・カ(環境)・ケ(健康)・ツ(通信)・ノ(農業)をキーワードに様々な研究活動を進め、新たな価値の創造に挑戦しています。今後は当社の技術についてもご紹介できるような機会があれば、より地域の皆様に貢献出来るのではないかと考えております。

センターからのお知らせ

2017年度のsmallオフィス 入居団体募集中!

市内で活動する市民活動団体の事務所として利用いただけます。駅に近く、作業ルームや会議室などがあるので集まりやすく、活動拠点として利用しやすい設備が揃っています。詳しくはホームページまたはスタッフまでお問い合わせください。

- ◆募集数：16区画
- ◆利用料：5500円/月
- ◆設備概要：机一式／ロッカー／メールボックス等
- ◆利用期間：2017年4月1日～2018年3月31日
(継続更新可能/審査あり)

◎申込締切：2月8日(水)まで
(2月13日(月)にプレゼンテーションの審査)

市民公益活動公開講座

「市民による海外協力の会」 から学ぶ いちばんみじかな世界の入り口

2/12
(日)
10:00～
12:00

会場：大津市市民活動センター大会議室
参加費：1000円
(フェアトレードのチョコレートの試食とドリンク付)
定員：20名(予約先着順)
申込先：077-527-8661 (大津市市民活動センター)

「国際協力」というと遠い国を想像してしまいがちですが、日頃のお買い物や不用品を捨てないライフスタイルが世界とつながっているとしたら...。シャプラニール(市民による海外協力の会)さんから学ぶ、フェアトレードのチョコレート付の美味しい講座です。

*シャプラニール
(市民による海外協力の会)は1972年に設立された、特定の宗教、政治、企業、団体には属さない、日本の国際協力NGO団体。

私たち一人一人ができること、豊かな社会について考えてみませんか?

大津市市民活動センター運営支援会 会員募集中!! (通称:市民活動センターファンクラブ)
市民活動センターでは、市民、市民団体、事業者、大学、行政等がよりよいまちをつつていく取組を支援しています。
◎会員特典:メルマガ/交流スペースにてオーガニックコーヒー(1杯100円)が楽しめます。

詳しくはスタッフまで



発行:大津市市民活動センター
〒520-0047 滋賀県大津市浜大津4-1-1 明日都浜大津1階
TEL:077-527-8661 FAX:077-527-8662
HP: http://movementotsu.com/

*平成28年度より特定非営利活動法人HCCグループが指定管理者として運営しています

特集：つながりのなかで生きる

市民活動フェスタのイベントの中で、映画「逃げ遅れる人々」上映会＆トークセッションを行いました。
ご登壇いただいた高島さんと中川さんのお二方にお話を伺いし、私たちのまち・大津でも、災害に備えて出来ること、つながりについて考えてみます。



高島信也さん
草津市在住、滋賀福祉輸送協会代表理事。不適切な救急車利用の無い社会をめざして、福祉輸送の普及に取り組む。
ひとことメッセージ
「日々勉強」

＊福祉輸送
NPO法人やボランティア団体などが、高齢者・障害者らをリフトなどの特殊な装置がある福祉車両を使い、タクシーのように病院や買い物先へ運ぶサービス。

◎ 団体紹介
一般社団法人滋賀福祉輸送協会
事務所：大津市浜大津4丁目1-1 明日都浜大津1F
TEL:077-565-2799 FAX:0748-69-7507
コールセンター短縮ダイヤル 局番なしの#7199
(※固定電話と、IP電話のうちのNTTのみ)
つながらないとき ☎0748-77-4611 ☎077-565-2799
HP: <http://swtc.jimdo.com/>
☆Facebookも更新中☆

《救急車の濫用防止に#7199の活用を》

2年前に滋賀福祉輸送協会を立ち上げました。きっかけは、同僚のお子さんが交通事故に遭われた時、救急車の到着が間に合わず、助かりませんでした。救急車は地域に限られた救急資源。「#7199」に掛けて頂ければ、滋賀福祉輸送協会に繋がりが、最寄りの介護タクシー、福祉輸送が手配できます。支援体制が弱い地域もありますが、県内全域対応。

製作：東北関東大震災障害者救援本部

逃げ遅れる人々

東日本大震災と障害者 [監督：飯田基晴]

2011年3月11日に起きた東日本大震災によって障害者が直面した状況を綴ったドキュメンタリー映画



～高島さんのインタビューより～

《繰り返してはいけない輸送弱者の被災》

私たちは、主に輸送弱者（動けない方々）をお運びするのが仕事。災害時にどうするのかと常々考えます。映画の中で、避難所でベッド等が無い場合、車椅子に座ったまま2週間以上過ごさなければならなかった、周りから出て行くように言われてしまった等、東日本大震災の際に避難所で起こった様々な状況が語られています。そうした一つ一つの困難を無くす具体的な対策を実行したいという想いが強まりました。



最近少しずつ認知が広がり、登録事業所全体で、年間1万件を超える電話がある

《団体の垣根をのりこえた支援》

例えば、避難所は人口比率に合わせて作られていて、田舎ではめっちゃ遠いという事例があります。その時に高齢者、障害者はどうするのか、多くの課題があります。私たちだけではどうにもできない支援の在り方を、色んな方々と話し合い、当事者、地域の方々、行政、福祉関係者の垣根を越えて、意見交換や具体策づくりをしたいです。

～中川さんのインタビューより～

《映画をみて気づいた盲点、不安》

今、一人暮らしをしているのですが、支援やヘルパー利用の空く時間が必ずあります。そんな時に災害が起きたら逃げられないだろうなあ、と感じます。オートロックの集合住宅に住んでいるのですが、災害時に誰かが助けに来てくれない、オートロックを解除できなければ中に入ってもらえない、という家の盲点に気がきました。映画を見て、それまで感じていた災害に対する不安や恐怖心が、より具体的な想像となりました。



上映後のトークセッションの様子
(左：高島さん 右：中川さん)

《日常のつながりを広げていきたい。》

講演で各地を回り出してから、日常で周囲の人から「〇〇でお話を聞きました」と声を掛けてもらうことが増えました。繋がりができ、積み重ねができて良かったと感じています。災害時に助けを行き届かせる為にも大事なことは地域や日常。今後、災害や地域生活について、会議という硬い形ではなく、サロンやワークショップ、気軽に話せるお茶会のような形で障害の有無や年齢・性別等問わず、日常にあることを共有していきたいです。



中川佑希さん

大津市在住、共生シンフォニー・まちかどプロジェクト所属。
《障害者差別のない「おおつ」を目指す会》の代表を務め、大津市の条例制定を目指す。
ひとことメッセージ
「一期一会」



＊まちかどプロジェクト
「街の中で暮らそう」「当たり前前に生きよう」とする身体障害者が集まり、街にでて「仕事」や「余暇」を充実させる活動を目指す。

◎ 団体紹介
社会福祉法人
共生シンフォニー・まちかどプロジェクト
事務所：大津市大萱5-6-8
TEL:077-543-2844 FAX: 077-543-2900
HP: <http://www.gambatta.net/publics/index/24/>

《“伝える”ことを仕事にしていきたい》

以前はデスクワークの仕事をしていて、人前に出ることは得意ではなかったのですが、体調や障害の変化により仕事を長く続けることが難しいと考えていたところ、「まちかどプロジェクト」を紹介してもらいました。講話も演劇も漫画も「伝える」ということは同じ。でも伝えたいことが同じでも表現が色々あり、伝わり方も違い、使い分けを工夫します。体調の変化がある中、自分にずっと続けられることは「伝える」こと。これからも伝えることを自分の仕事としてやっていきたいと思っています。

若者カフェvol.2 11月27日(日) 不登校の子を抱える 親の悩みを共有する会

大津市市民活動センターにインターンシップとしてきた二人の大学生が企画から考え、挑戦した今回の若者カフェ。子どもたちの支援を行っているユニゾンカウンセラー協会さま、NPO法人あめんどさま、NPO法人CASNさまと造形詩家・エッセイストの末富晶さまにご協力いただき、さまざまな視点からお話いただきました。



当日は、発表だけでなくご参加いただいた方からも活発な意見交換が行われ、学校以外の社会、地域、人とのつながりの中にたくさんの支えや学びが存在していることを感じました。

学生ミニレポート1 立命館大学二回生 森下 勇太

今回、大津市市民活動センターでのインターン活動として、一つの企画を一から作るということは、とても難しいなあと感じました。不登校というテーマを設定して、自分たちに一体何が出来るのかを考え続けて出した答えが今回の「不登校の子を抱える親の悩みを共有する会」でした。初めての自分たちの企画で、一体どれくらいの方々に来てもらえるのなあと思いはかりの中、計画を立て、団体の方にお話を聞きに行くなど、とにかく初めての事がほとんどでたくさんの新しい経験が出来ました。一つの大きな社会問題について、何か今回のことがつながることと願います。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

学生ミニレポート2 立命館大学二回生 清水 力樹

不登校を題材にしたこの会を行おうと思ったのは、私の母から聞いた不登校の児童を抱える家庭の話がきっかけでした。不登校の児童を抱える親御さんたちの少しでも手助けをしたいとその話を聞いた時から考え、このテーマで会を開けたことをとても嬉しく思っています。
会合を開くまでに実際に不登校をメインに活動されている団体を訪問し、どのような児童が不登校になってしまうのか、親御さんたちは何を考えているのかといったような具体的な話を聞かせていただき、とても衝撃を受けました。また話を聞くにつれて、不登校というテーマがあまりにも深いことを実感し、このままではどのような会合を開けばいいのか分からなくなった時期もありましたが、その時々NPOの方々やセンターの方にアドバイスをいただき、充実した内容で会を終えることができました。